

琉球大学学術リポジトリ

甘蔗の養分欠乏症 (No126号の続き)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鎮西, 忠茂 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21056

甘蔗の養分欠乏症

(No 126号の続き)

10. 甘蔗の銅欠乏症

銅の欠乏症状は分けつの生成が貧弱となり頂芽がしおれ、葉が黄化する。クロロシスの為に葉が縞状になる。銅欠乏を起こした葉は正常な葉より広く又柔かくなる。茎はゴムの様なかたさとなり、ポキンと折れる事なしに容易にまげることができる。

銅欠乏症状は甘蔗の銅含量が 3.5 p p m 以下になった時にのみ起るといふ。銅欠乏を起した畑にはオーストラリアでは硫酸銅を10 a 当り 4~5 kg 施用してこれを矯正している。

11 甘蔗の亜鉛欠乏症

甘蔗の亜鉛欠乏症の最も特徴ある初期症状は主葉脈にそって 緑色が著しくうすくなる ことである。鉄やマンガンの 欠乏症に対する 著しい差異は、鉄、マンガンのクロロシスは葉脈間に現われるが、亜鉛欠乏は葉脈に沿って葉緑素が失われることによって縞状効果を出している。併し症状が進んでくると葉脈間も色がうすくなって行く。明白な白色の線が現われるのは主葉脈の維管束中の葉緑素が減少するのによるものである。葉脈の壊死が明らかになるのは症状がひどくなり、生長点の生長が停止した時である。出て来る若い分けつは亜鉛欠乏のひどい時は、完全に黄化しその葉の間もなく葉先から下方に向って壊疽状態になる。

亜鉛欠乏症は葉の組成が乾燥重に対して10 p p m 以下に落ちた時にのみ起ると云われる。

12 甘蔗のモリブデン欠乏症

甘蔗のモリブデン欠乏症状は葉組織に黄色のすじが出来る特徴がある。これは充分成熟してない葉に限られる。又これは時日の経過と共にはげしさをまして来る。すじは巾 1~3 mm, 長さ数 cm 又は 1 cm 以上になる事がある。是等のすじは被害葉の葉先半分は密であって下方に向うと密度が減じる。葉がもっと成熟したものでは、すじはその中心に幾分赤色の色素を生成し、それはついに壊死組織に退化してしまう。

モリブデン欠乏症は酸性土壌で起る。石灰施用によって通常之を矯正する事が出来る。(以上は主として H. B. Sprague (1964); Hunger signs in crops によった) (鎮西忠茂)